



How to use History - 進化論 Evolution の概念をとおして -

研究背景

私たちを取り巻く日常環境は、当たり前前に既存の事象で満たされている。縮小時代に入っている日本では、ついに事物の“不足”が“過剰”へと逆転した。こうした状況から、昨今の日本では建築の再利用が重要な行為として再び注目を集めているのだが、既存建築物を再利用する行為は古来の最も普遍的な態度であり、建築を営機的に紡ぎ織るための行為、つまり“継承性”と“更新性”の両義性をもった重要な行為である。しかし、現状の「リノベーション」や「リフォーム」といった専門家から一般人までの解釈を容易にする膾炙した表現によって用いられるこれらの実践は、科学的・政治的な正しさを容易に引き寄せるがゆえ、本質的な【再利用】という行為よりも、「長持ち→正しい」「古いもの→なんかいい」というような表層的な認識が一般的に定着してしまう危険性を孕んでいる。単なる縮小時代の流行として建築の再利用という行為を一過性のものとするのではなく、創作論的視点から検討を行うことで、その有為性を今一度確認する必要がある。

研究目的

本研究では、「再利用」という行為を“継承性”と“更新性”の両義性をもった行為として創作論的視点から捉えなおすことで、再利用することの豊かさを今一度確認し、その手法を獲得していくことを目的としている。本論では、「再利用」という行為に対し、その創造過程と多くの類似性が見られる生物の「進化論的思考」を導入し、それに基づく設計手法を提示する。そのため「進化論的思考」が再利用という行為に対して適しているのかを示すことが本論の副次的な目的である。

研究構成

第1章では、まず「再利用」の言葉の定義概要とその本質についての確認を行う。次に、再利用の「思考のプロセス」と「生物における進化」の過程の類似性に着目し、進化論的思考を用いることで設計方法論を示すことができると仮説を立てる。第2章では、前章の仮説に基づき再利用の実践が進化のプロセスと近似していることを多角的な観点から示し、それらの言及を通し、『再利用と進化』を説く。第3章では、進化論的知的構造を参照し、実際の事例を交えながら変異と適応という概念の概説を行う。第4章では、進化論的思考に基づき、事例分析をし設計のプロセス及び設計の手引きを作成する。第5章では、前章の考察を踏まえ、建築への応用と有用性を示す実践的検証を行う。終章では、本研究の総括及び、今後の展望を述べ、研究の結びとする。

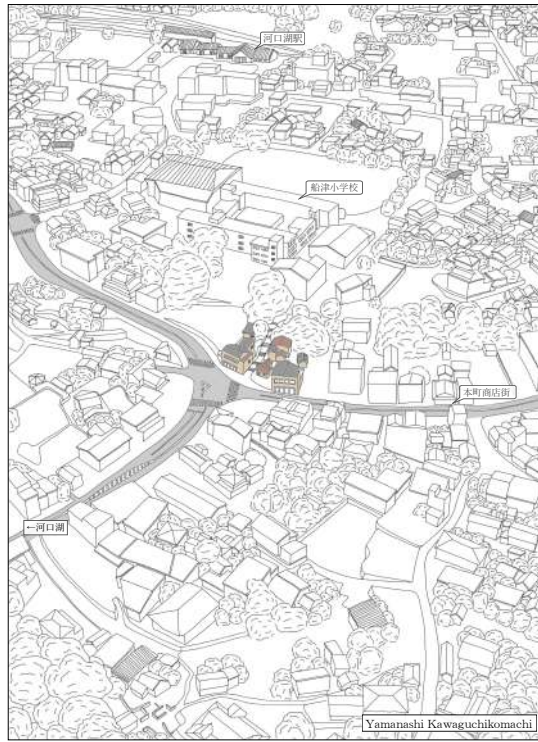
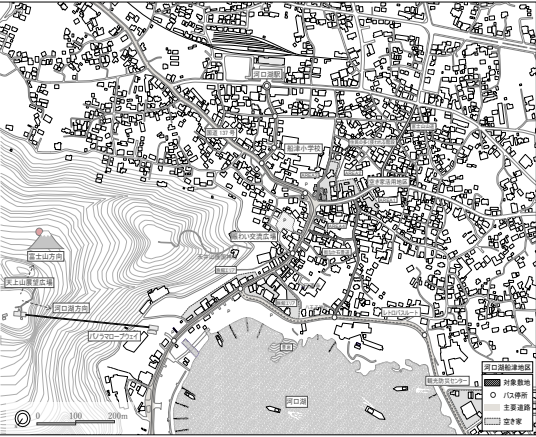
総括

既存事物に対して再利用的視点を持ち、進化論的思考を用いた創作論的視点から検討を行うことの重要性を総括している。具体的な設計で示した通り、建築の再利用という行為が、“継承性”と“更新性”の両義性をもった重要な行為として建築を豊かしてくれることを期待し、本論の結びとする。



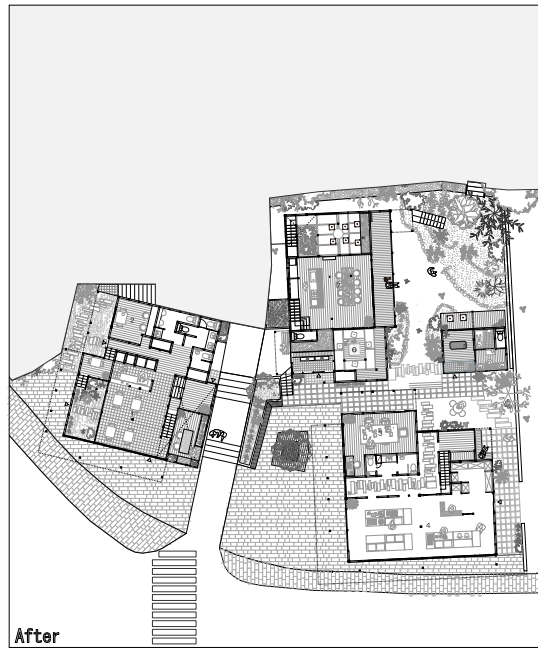
SITE | 富士山の裾野に位置する山梨県・河口湖町・船津地区

対象地は富士山の裾野に位置している。富士山という強い求心性を持ちつつ、厳しい自然環境に適応するために人工的に作られている部分と場当たりの増減改築された空間とが混ざり合う魅力的な風景を持つ町だ。中でも船津地区は、葛飾北斎が記した「富嶽三十六景」の舞台の一つとしても著名である。その風景は、童話「かちかち山」の舞台となっている天上山を臨み据え、ずっしりとした豊かな存在を我々に与える富士山に抱きかかえられた緩やかな傾斜地形である。湖畔へと流れ出る豊かな水脈と岩盤が特有の街並みを作り上げており、斜面地を見下ろす形で、眼前に広がる河口湖は、言葉にできない美しさを持っている。このように魅力多い街は観光地としても人気が高い。都内からの利便性も良く、多くの観光客訪れる土地である。しかし、この影響は経済面を潤すと同時に“観光地化”という再開発の動きを助長している。長い時間かけて作り上げられてきた自然と共存した風景を、いつのまにかどこにでもあるような訪れる人の接待の街へと変えてしまう危険性を持っている。このような転換期にある今街は更新と継承の狭間にもがいている。



縮尺・方位/Scale and Direction
2FL Plan S=1/250
0 1 2 3 4 5(m) N

各種機能/Various functions
1 待合所 2 談話室 3 テラス 4 リビング
5 FS 6 浴室 7 各個室



縮尺・方位/Scale and Direction
1FL Plan S=1/250
0 1 2 3 4 5(m) N

各種機能/Various functions
1 カフェ 2 更衣室 3 事務所 4 店舗
5 廊下 6 客間 7 共有キッチン



縮尺・方位/Scale and Direction
3FL Plan S=1/250
0 1 2 3 4 5(m) N

各種機能/Various functions
1 談話室 2 展覧室 3 リビング 4 キッチン
5 共有デッキ

フリースペース

既存建築を部分的に解体し、既存の大階段の踊り場とシームレスに繋がるフリースペースへと変更させている。

移住者用の住居

既存建築を改築し、複合された各機能と相互扶助の関係を気づきながら街の暮らしに接続する住居へと変更させている。

移住者用の住居

既存建築を改築し、複合された各機能と相互扶助の関係を気づきながら街の暮らしに接続する住居へと変更させている。

展望部屋

庭に取り残されていた倉庫の減築部分を部分的に移築し、富士山への眺望の取れる展望部屋を増築している。

共有キッチン

既存住居の一階部分を改築し、街の人が使える共有のキッチンへと変更させている。隣接する庭との関係を再考し空間を設えている。

離れ

庭に取り残されていた倉庫を半分減築し、庭に採光と通風を確保しつつ、残った半分を改築し離れ（浴室）へと変更させている。

ふれあい広場

既存建築を基礎を部分的に残しつつヴォリュームを解体し広場へと変更させている。

店舗

商店街の端緒にある既存建築の一階部分は、既存の機能をそのまま継承しつつ深い軒を増築しつつ、部分的な改築を行い商店街の入り口として様々な人を受け入れる。

増築・減築・改築を用いた変異から作り出されるこの街ならではの景色

敷地を貫く通路としても機能している大階段の踊り場と各建築が接続し、斜面地ならではの立体的な空間を創造している。DESIGNとしては、既存建築の積雪を考慮した勾配屋根をガイドに全体としてのプロポーションと既存建築の構造を順應した形状となっている。結果として複数の勾配屋根が作り出す風景は、近景としての街の風景に反応するとともに、遠景の富士山をはじめとする豊かな山々を思わせるこの土地ならではの風景になっている。商店街から引き込んだ深い軒は、雨風、雪を防ぐ中間領域として機能するとともに建築のファサードに対して身体的なScaleを獲得することに寄与している。



風通しのいい路地空間



建築に囲われた踊り場



陽が差し込む住空間



回遊に面した賑わい広場



踊り場に隣接する書斎室